

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年10月30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892200023		
法人名	株式会社 エヌエスサービス		
事業所名	ふくふく鹿嶋	ユニット名	
所在地	〒314-0031 茨城県鹿嶋市大字宮中字宮中野3820-1		
自己評価作成日	平成26年4月21日	評価結果 市町村受理日	平成26年10月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	新規事業所につき未登録
-----------------	-------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年5月27日	評価機関 決 済 日	平成26年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>小規模多機能型サービスは、在宅での生活が柔軟に対応できるように、通い、訪問、泊りのサービスができる施設となっている。施設内には、看護師や、毎週水曜日には理学、作業療法士が、リハビリ指導に来所されていて、本人のリハビリ相談や福祉用具の使用にも相談に応じていただいている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は緑の多い静かな場所に立地しており、民家も多く、近隣住民が散歩をしながらお茶飲みや季節の花を届けに立ち寄ってくれるなど、地域との交流が図られている。 訪問看護が週3回来所するほか、週1回理学療法士によるリハビリテーションも行われている。 玄関から入るとすぐに居間があり、居間にある大きなベランダからは北浦の湖が一望でき、利用者からは大変好評である。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は玄関に掲げてありその都度職員は互いに確かめ合っていて共有している。	法人本部で作成した理念を玄関に掲示し、毎日の申し送り時や月1回のミーティング時に共有し、実践につなげているが、事業所独自の理念を検討するまでには至っていない。	職員の意見を取り入れた事業所独自の理念を作成し、職員の目の付きやすい場所に掲示したり、職員会議などで確認したりして理念を共有し、実践に活かすことを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の区民の勉強会や、懇談会には事業所の代表として参加をしている。近くのお年寄りも時々お茶のみに来所されている。	月1回から2回お茶飲みや花を届けに来訪してくれる2人から3人の近隣住民が、利用者との会話を楽しんでいる。 地域包括支援センター職員や社会福祉協議会の局長、区長、民生委員、老人会長、事業所の管理者と職員で3ヶ月に1度行われる地域主催の勉強会や地域の夏祭り、清掃活動に職員が参加しているが、利用者が参加するまでには至っていない。	地域の行事に利用者も参加ができるような体制づくりや、地域住民が事業所に来所して参加できるような行事を開催することを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの人たちにパンフレットなどを配布している。近くの住民の相談にも気軽に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での内容は、職員へ説明している。疑問点があれば必ず会議において検討をしている。	市役所職員や地域住民の代表、利用者の家族、代表者、職員で運営推進会議を開催してはいるものの、インフルエンザの流行時期にあたるなどで2ヶ月に1回開催するまでには至っていない。 会議では事業所の利用状況や活動報告を行ったり、市職員や小山記念病院のソーシャルワーカーから話しを聞いたりしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の職員も参加している。わからないことがあれば連絡して、支援をいただいている。月の利用状況も月初に市へ報告をしている。	管理者は介護保険更新認定申請などで市役所を訪れた場合は、市担当者に空き状況の報告をしたり、電話等で介護保険のわからないところを教えてもらったりしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修等を通じて身体拘束の禁止を学んでいる。生命に危険を及ぼす行動が見られたときは必ず家族に相談し、承諾書をいただき確認を得ている。	現在は身体拘束の対象者は居ない。身体拘束排除マニュアルや研修の実施報告書、家族等からの同意書はあるが、「経過観察記録」や「再検討記録」を整備するまでには至っていない。玄関や居室は施錠せずいつでも出入りができる状況となっている。	やむを得ず身体拘束をする場合の「同意書」だけではなく、「経過観察記録」や「再検討記録」を整備しておくことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止法の事は勉強している、お互いに虐待してはならないことをいましめあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は各々勉強をしている。利用者の中にも社会福祉協議会のこの制度を利用している者もいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営推進会議や、来所時に疑問点等の相談や説明に応じており、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の要望は来所時に話し合いを持ち、それらを経営者に報告し、反映させるように努めている。	利用者からは日々の会話の中から、家族等からは面会時に意見や要望を聴いているが、意見箱を設置したり、家族アンケートの実施もないため、意見を出すのが得意でない利用者や家族等から意見等を汲みあげるための工夫をするまでには至っていない。	意見箱を設置したり、無記名のアンケートの実施により、利用者や家族等が意見等を出し易いように工夫することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ミーティングを開き、小規模多機能型サービスにおいても職員の提案改善委員会を設け積極的に反映させている。	職員が提案できる「改善提案書」を作成し、本部と合同で開催する定例会議で、管理者と一緒に職員も参加して意見等を出せる機会を設けている。 勤務体制についても管理者と相談して調整してもらい、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力は経営者に報告をされており、改善をいただいている。自己、他者評価票を利用し、給与に反映させている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は施設内外の研修にも自由に参加をされており、各自の国家試験などに受験をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者は県の研修には参加をしている。ケアマネージャーは連絡会を通じて情報交換や研修に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始に当たり、本人が不安になる際は、利用のお試しをしていただき、十分に説明させていただき、努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族へは事前に十分に説明し、不安や要望はよく聞きながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の必要としているサービスは、十分な話し合いの機会を持ち、必要などときにはほかのサービスをも説明している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と本人は同じ立場を共有しており、理解しようと努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望を取り入れ自宅へ帰ったり、訪問や通いを自由に取り入れ、家族との絆を大切にするように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にされてきた友達も自由に来所されている。時々自宅への訪問ができるように努めている。	利用者や家族等に馴染みの人や場との関係を確認し、申し送りノートを利用して職員で把握している。 利用者から「近所の友人に電話をして欲しい」との要望を受け、職員が電話をして面会に来てもらったり、入院している利用者の友人の面会支援を行ったりして馴染みの関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は一人にさせず、職員は利用者同士のつながりが持てるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用者は契約が終了しても、自宅へ訪問したり、病院へのお見舞いをしたりして、その後の関係づくりに努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや暮らし方は日々の会話の中で十分把握している、困難な場合は家族とも相談しながら検討に努めている。	利用者には会話から、家族等からは面会時や電話で思いや意向を確認し、申し送りノートを活用して職員で共有ができるようにしている。 草取りや編み物など、利用者からやりたいという要望が出された場合には、家族等にも連絡して情報を共有し、行えるように支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の情報は介護計画や本人・家族のお話を把握し、生活歴に基づき支援ができるように努めている。	/		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や心身の健康状態を把握しながら介護支援に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人、家族との話し合いのもと各々に適した計画を作成している。本人、家族の了解をいただいている。			利用者や家族等の意向を把握して介護支援専門員がモニタリングを実施し、6ヶ月毎に介護計画を作成している。毎月のミーティング時や緊急時のスタッフ会議でも話し合っている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子は職員間で情報を共有し、今後の支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望はできるだけサービスに反映できるように努めているが、困難な時は説明し、確認のもと取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のお祭りや行事などにもできる限り参加ができるよう支援をさせてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はこれまで自宅でのかかりつけ医との関係が継続できるように、引き続き支援をさせてもらっている。	利用者や家族等から意向を聴取し、希望するかかりつけ医への受診を支援するとともに、協力医療機関への受診や歯科受診も支援している。 家族等が受診に付き添う場合は、事業所から病院へ利用者の状態を電話で先に伝えるようにしている。 職員が付き添う場合は、受診結果を家族に電話で報告するようにし、職員は申し送りノートで共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者が入院をした場合に適切に見舞いなどに伺っている。必要な情報はその際病院より得られており関係づくりに努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	重度化における支援は家族ともその都度相談している。終末期に向けた方針は今後に向けて家族とも相談していきたい。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化における支援は家族ともその都度相談している。終末期に向けた方針は今後に向けて家族とも相談していきたい。	事業所は終末期の看取りを行う方針であり、契約時に家族等に説明をしている。同意書についても整備されており、状態の変化に合わせて希望を確認し、家族等から同意を得ている。重度化や終末期についての対応マニュアルの作成や職員研修を実施するまでには至っていない。	重度化や終末期を迎えた利用者への対応が不安なくできるように、重度化や終末期の対応マニュアルを作成したり、内部研修を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時における訓練は緊急マニュアルがあり、職員は訓練を行い実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、職員は利用者と共に安全に避難ができるように努めている。地元の区長さんとも協力体制が得られている。	総合訓練は実施しているが、夜間想定での訓練や近隣住民が参加しての訓練はなく、年2回の実施をするまでには至っていない。訓練実施記録はあるが、課題の記載や緊急連絡網を作成するまでには至っていない。災害に備え水やオムツ、毛布、懐中電灯、電池の備蓄はあるが、食糧品を備蓄するまでには至っていない。	年2回の防災訓練を年間計画に盛り込み、近隣住民にも呼びかけて参加を得たり、緊急連絡網を掲示するとともに、災害に備えて食糧品も準備することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重する支援をさせていただいている。本人のプライバシーを損ねないようにそれとなく声をかけ対応している。	職員は利用者一人ひとりの生活暦や性格を把握したうえで、利用者にあった言葉かけや対応に努めている。 利用者の個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いが表出できるように職員は言葉をかけている。自己決定ができるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や要望はできるだけ支援に努めている。できないときは本人と相談をしてほかの支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際はできる限りおしゃれができるように、声かけや支援をさせていただいている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一日のなかでも食事は楽しみのひとつである為、利用者の好みを提供できるようなメニューに努めている。	法人本部で作成した献立にそって本部から食材が届き、事業所で利用者と一緒に調理を行っている。 月1回程度外食に出かけたり、行事食で雛祭りにオードブルやクリスマスにケーキなどを提供したりしている。 利用者は座りながら行えるふきや豆のスジを取ったり、巻き寿司や団子を作ったりしている。 嫌いな食材については代替品を用意するようにしている。 利用者の食事の際、職員は見守りを行っているが、一緒に食事を摂るまでには至っていない。	勤務時間の調整などをして利用者と職員が同じ食事を摂り、会話をしながら食事の時間が楽しめるよう、工夫することを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分量は把握している。なるべく食べられるように工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後は口腔ケアをしている。義歯は夜間に洗浄剤を使い清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	職員は利用者一人ひとりの排泄リズムを把握している。本人がスムーズに排泄ができるように適切に支援に努めている。	職員は排泄チェック表を基に、利用者一人ひとりのタイミングに応じて声かけやトイレ誘導を行うことにより、オムツ使用だった利用者がリハビリパンツに変わるなど、自立への支援を行っている。 失禁した利用者については、さりげなく声かけをし、ほかの利用者に気付かれないようにトイレや居室へ誘導して交換をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の健康状態に応じてスムーズな排泄ができるように飲食物や水分量に注意して支援をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の際に一人ひとりのバイタルチェックや本人の希望をうかがい、入浴をしている。個々に応じた支援ができるように努めている。	入浴は1日おきに行っているが、利用者の希望にそって毎日でも入浴を支援している。浴室には大きなガラス窓があり、北浦の湖を一望しながら大きい浴槽で入浴をすることができる。 浴槽には浴槽内用の椅子と浴槽の大きさに合わせた滑り止めシートを使用し、事故が起きないように安全面に配慮をしている。 入浴剤のほか、柚子や菖蒲などを入れて季節感を感じることもできるよう工夫をしている。 入浴を嫌がり、入浴ができない利用者には清拭やドライシャンプーを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が自宅で過ごされていた時と同じような状況にできるように、努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬はお薬手帳の情報のもと、職員は確認し共有している。不明な点は看護師にも相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが楽しみが持てる生活が過ごせるように職員は自宅での生活を聞き、それを活かせるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地元の行事や季節の変化が感じられるような支援に努めている。家族とも相談し、結婚式や自宅での行事にも参加ができるように努めている。	職員は利用者の希望を聴きながら外出支援を行うようにしている。 利用者が「パエリアを食べたい」という希望で外出に出かけたり、食べたいおやつを買いに外出したり、不穏な利用者については、送迎車でドライブに出かけたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出された際、ご自分でお小遣いを持参されている方は直接支払いをしていただいている。できるだけご本人の希望がかなえられるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人への手紙や、電話は直接本人と話ができるように支援をしている。一人ひとりの希望に添えるように努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は適切な温度や光の調節ができるようになっている。一人ひとりが快適に生活ができるように工夫されている。	居間には大きなベランダがあり、そこからテラスに出られ、北浦の湖を一望できる環境となっている。 天気の良い時には、筑波山を眺めながら食事を摂ることができる。 壁には利用者が制作した花火の貼り絵やハンカチで作った犬を飾ったりしている。 洗面台とトイレを居室以外にも設置しており、いつでも手洗いやうがいができる状況となっている。 テレビは壁掛け式で、利用者の移動にも邪魔にならないように工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者に各個室があり、ひとりになれる場所が設けられている。テーブルもいくつもの場所に設置をされており、工夫されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自分の好みのもが置かれていたりしている。なるべく本人の希望が取り入れられるように努めている。	居室にはベットやエアコン、カーテンが備え付けられており、短期間の利用者が多いため、ラジオや収納ケース、クッション程度の持込みとなっている。希望があれば和室の準備もあり、利用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者ができることやわかることが活かせるようにしている。庭には花や野菜が植えてあり、時々除草ができるようになっている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 ふくふく鹿嶋

作成日 平成26年10月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	会社全体としての理念はありましたが、ふくふく鹿嶋としての事業所としての理念がありませんでした	ふくふく鹿嶋としての理念を作成し、共有する	全職員にて理念について検討し、意見を集約し、ふくふく鹿嶋として理念とする	2ヶ月
2	6	ベットより転落の危険があった為、家族の了承のもと全面柵をしましたが、経過観察記録としての記録がなかった	身体拘束として家族の了承が得られてはいたが、拘束を解除するまでの経過記録を作成する	経過観察記録表を作成し、整備する	1ヶ月
3	33	重度化や終末期の対応マニュアルが作成されていなかった	看取りのマニュアルを作成し、職員に研修を実施する	重度化や終末期に向けた看取り対応マニュアルを作成し、研修を実施する	2ヶ月
4	35	総合避難訓練を年2回実施をしていない	消防署立会いのもと総合避難訓練を実施する	消防署立会いと指導のもと総合避難訓練を最低年2回実施する	3ヶ月
5	2	地域との付き合いのなか職員だけではなく利用者も参加できるようには至っていなかった	地域の小学校の運動会や地区の祭りにも利用者や職員が参加ができる	事業所は地域とのつながりを重視し、利用者を含めた参加ができるようにする	1ヶ月
6	4	運営推進会議を2ヶ月に1回開催がなされていない	運営推進会議を2ヶ月に1回開催する	運営推進会議の年間予定表を作成し、2ヶ月に1回開催できるようにする	1ヶ月
7	10	利用者や家族からの要望を汲みとるまでには至っていなかった	利用者や家族寄りの意見が表に出しやすい環境を作る	家族等から面会時に要望を聴き反映させてはいるが、意見箱を設置して汲みとる環境を作る努力をしていく	1ヶ月
8	40	利用者の食事の際に見守りや食事介助をされており、一緒に食事を摂ってはいなかった	利用者と職員は一緒に食事を摂る	利用者の見守りや食事介助が必要な為、それ以外の職員と一緒に食事を摂ることにする	1ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。